



平成23年10月3日

卓話 『世界への挑戦 日本アメリカンフットボール協会』

社団法人 日本アメリカンフットボール協会 専務理事

鹿島建設株式会社 土木管理本部 技師長

金氏 眞 様

金氏でございます。この40～50年の間に日本のアメリカンフットボール、何が進化したかという体が確実に大きくなりました。今回の世界選手権では、アメリカのプロにはともかく、それ以外の人達とは対等以上に戦えると感じました。

サッカーもラグビーもそのルーツはイギリスですが、アメリカンフットボールはアメリカで発生しました。プリンストンが1869年にやったゲームが一番古いといわれています。ラグビーとアメリカンフットボールの違いは、防具をつけていることとオフサイドがないということ。ラグビーはボールより前にいる人は働いちゃダメなんですけど、ボールより前に行って相手をぶちのめして、そこをボールを持って走るというのがアメリカンフットボール。ですから負傷者が多くて何度もフットボール禁止の世論が沸きあがりました。1906年からの25年間で235人の大学生が命を落としています。フーバー大統領はアメリカの将来の発展を担う青少年がこのようなことでスポーツをやる勇気を失うようではアメリカの発展もおぼつかないと言ったそうですが、世の母親の声を無視することはできず、用具の改良、規則の改正をし、その結果、死亡者も減少し、フットボールは隆盛になっていきました。

日本ではサッカーもラグビーも明治の末ごろから大学などで行われていましたが、アメリカンフットボールは昭和になるまで行われませんでした。日本への導入に決定的だったのは日系2世の日本留学ブームのようです。

1928年に満州事変が勃発してアメリカ国内で日系人に対する風当たりが強くなったこと、

それとやはり子供には日本で教育を受けさせたいということで、日本にたくさん留学生が来たわけです。ところがこの日系2世たち、顔かたちは一緒でもうまく日本の学生と馴染めない。そこでスポーツを通じれば理解し合えるだろうと考え、フットボールを理解することはアメリカを理解し、民主主義を理解することであるという発想のもと、1934年、神宮競技場で日本で初めての試合が行われました。

現在、国際アメリカンフットボール連盟には62か国が参加しています。そこでシニアのワールドチャンピオンシップが1999年から行われ、日本は第1回イタリア大会、第2回ドイツ大会とも1位でした。2回も優勝したので次はホストをやってくれということで第3回川崎大会をやり、今回はオーストリアに行ってきたわけです。今回は8か国が参加し、アメリカ、カナダ、日本、メキシコという順位でしたが、実は過去の大会、2回まではアメリカとカナダは出場していなかったんです。カナダ、メキシコ、日本の実力はかなり接近しています。ですからチャンスは十分あって、今回もアメリカと決勝戦を戦いたかったというのが正直なところ。今は4年後のスウェーデン大会に向けてアメリカンフットボールも頑張っていることを知っていただければと思います。ありがとうございました。

